

■特別インタビュー■

消費者団体の方に聞く(前編)

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長 鬼沢 良子 様



[写真右から: 鬼沢良子様、広報部会長 永田則男、広報部会委員 木村香奈子]

消費者団体の代表として、産構審・中環審合同会議に委員として参加されるなど、さまざまな方面で活躍されている『NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット』事務局長、鬼沢良子様にインタビューを行い、他団体の方からみた自動車リサイクル業界などについて伺いました。(※以下、インタビュー本文は敬称略とさせていただきます)

『NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット』とは

— このたびはお忙しい中、インタビューをお引き受けいただき、ありがとうございます。まずは、鬼沢さんが事務局長を務めていらっしゃる『持続可能な社会をつくる元気ネット』についてお伺いしたいと思います。

鬼沢 はい。まず、ごみ問題で最終処分場がもうなくなるってということが社会の大きな課題になった20年くらい前、それぞれにリサイクルに取り組んでいる行政や専門家、市民がつながるネットワークを作るってことを目的にできたのが『元気なごみ仲間の会』という市民団体だったんですよ。

— それが前身になるわけですか？

鬼沢 そうなんです。その後NPO法人になりました。2001年からは『市民が創る環境のまち“元気大賞”』という事業を始めました。全国各地でいろんな環境活動をしている団体に応募いただいて、それを市民の立場で応援する表彰制度なんですけれども。

目次

巻頭言 1
トピックス	
特別インタビュー(前編) 1-3
産構審・中環審合同会議 3
監査での事例報告 4
ブロック会議 4
大阪府組合活動 4
会員の取り組み紹介 5
鉄スクラップ最新情報 6
行事予定・お知らせ 7
編集後記 7

巻頭言

先月、社員の結婚式に出席しました。新婦側でしたので新婦が入場する度に感動の余り目頭が熱くなりました。

後日、披露宴の席次表から新郎の先輩のお父様が取引銀行の支店長と分かりました。その支店長であるお父様より我社に対し、良い評価をいただいたと社員が嬉しそうに話をしてくれました。

人は、思わぬところで繋がっています。日頃から誰に対しても変わらぬ態度「礼儀礼節」と、笑顔で穏やかに相手の立場に立った言葉遣いで接する「和顔愛語」が大切であると学びました。

(広報部会 木村 香奈子)

鬼沢 最初は各地のリサイクルの活動が主でしたが、年数を経るごとにだんだん変わっていきまして、コミュニティビジネスや地域の特性を活かしたまちづくりの活動に発展をしていったところがあります。

——今はもう全国的にいろんな形で活動されている感じなんですか？

鬼沢 私たちが全国的にというよりも、全国で活動されている方たちとのつながりがあるので、たとえば、他のいろんな事業でも、「この地域に行けばこの人」という人材がいるわけじゃないですか。だから、「今、こういう事業をやっていて、今度そちらの地域でもやりたいんだけど、一緒にどうですか」というお声掛けをして、今ではまったく違う活動も、そのように展開しております。

——なるほど。

鬼沢 元気大賞は、表彰するだけじゃなくて、翌年私たちが一般参加も募ってその地域にエコツアーで訪れるんですよ。そこがね、私すごくよかったと思うんですよ。その地域の人と交流することで、活動していくうえでのご苦労だったり、成功した秘訣だったり、地域の方の考えだったりっていうのを共有できて、お互いが学び合えるいい機会だったなあと思うんですね。

海外からみた日本の自動車リサイクル

鬼沢 そんなふうにしていろいろ活動を続けてきたんですけど、ここ最近では『マルチステークホルダー会議』というのを開催しておりまして、今年2年目なんですね。今年は自動車リサイクル制度の見直しの年なので、この会議で自動車リサイクルも取り上げております。

——実際どうですか？日本の自動車リサイクルというものにどんな感想をお持ちですか？

鬼沢 実は昨年ヨーロッパに行ってきて、自動車リサイクルに関して、いろんなところを取材してきましたんですが、一番思ったのは、日本の自動車リサイクル法って素晴らしい法律なんだなって。他と比べてみてね。ドイツが進んでるって割と思うじゃないですか（笑）。でも、ドイツは年間140万台（廃車の44%）の行方不明車があるとかね。それと比べたら日本はすごいですよ。↑

——そうですね。我々やっている方としては正直厳しいなというのがありますが（笑）。

鬼沢 でも、その厳しさがあるからこそ、不法投棄も行方不明になっている車も少ないってことだと思います。

預託しているのが、日本とオランダで、オランダに取材した時に「いや、うまくいっているのは日本と我々だけだよ」って向こうの方がおっしゃってて（笑）。「おめでとう」って言われました、ふふふ。

産構審・中環審合同会議に委員として参加して

——ははは、そうですね（笑）。鬼沢さんは今産構審に見直しで参加されていますけども、参加した感想というのはいかがでしょうか？

鬼沢 今までもずっと年に1回は必ず報告として毎年8月頃に開かれてたんですが、その報告を聞いていると、割と自動車はうまくいってると。で、数値も目標値をかなり上回ってちゃんとできてるっていう報告を受けてまして。

でも、今回ヨーロッパの視察をして思ったのは、うまくいってるからこそ、もっと「将来どうするべきか」ということをこのへんで明確にしていく必要があるんじゃないかなと。

きっとこれまでは関係者の皆さんがご苦労されてうまくしてきたんだと思いますけれども、将来を見据えることはすごく大切なんじゃないかなと思います。

それと、ユーザーの側からすると、車を購入して廃車するまでの間って結構長いですよ？

——確かに、そうですね。

鬼沢 その間っていうのは、あまり自動車リサイクルに関心を持たないできてしまう。けれども、実際に廃車するときにはすごく大切な、そのためのリサイクル料金ですから。必ず毎年かなりの数の廃車が出てくるわけだし、必ずどこかで皆さん関係するわけだから、それをもう少しちゃんと意識できるようなことが大切だと思うんですよ。産構審の内容を聞かれていますとお分かりだと思うけど、ユーザーの関心が少ないっていうか、実際すごくうまく運んでいるけれども、そのことすら伝わってないですよ。